

研究課題 (テーマ)		よろずレポート相談所(年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	知能ロボット工学科	教授	神谷和秀
	知能ロボット工学科	准教授	高野博史
	知能ロボット工学科	准教授	澤井圭
	知能ロボット工学科	助教	玉本拓巳
研究結果の概要			
<p>これまで大学院生と学部生 (B4) が相談員となり、実験、演習、講義のレポートを下級生に指導する場として「よろずレポート相談所」の運営を行ってきた。本年度は学生の構内立ち入り禁止措置がおこなわれたことから、従来形式での「よろずレポート相談所 (略称: よろず相談所)」は開設せず、遠隔講義や実験での学生サポートを先輩の学生が行った。</p> <p>専門科目の実験、演習、講義などで、学生指導員が、必要なサポートを行えるように事前に指導を行った。コロナ禍であったことから、学生相談員を一堂に集めて事前指導を行うことはせず、実験、演習、講義の担当教員が対応する学生相談員に指導を行った。</p> <p>2020年度は、ロボット創造演習、知能ロボット工学実験1・2、プログラミング演習1・2、情報数学及び演習、材料分析技術、コンピュータシステム概論・演習、機械製図演習I・IIで学生相談員が活動を行った。</p> <p>これまで学生相談員の指導は一堂に学生を集めて行っていたが、コロナ禍であることから学生が担当する講義や実験の担当教員から直接行う形式に変更した。担当教員は、学生相談員の指導教員であることがほとんどで、日常的に研究室で情報共有することができることもあり、きめ細やかな指導を行うことができた。</p> <p>コロナ禍でのよろずレポート相談所は、従来の形式とは異なるため、これまでの実績との比較を行うことは難しいが、本プログラムにおいても相談員となる大学院生や学部生が下級生を指導し、学生同士が教え合い学び合うことができた。さらに、大学院生と学部生の組み合わせで学生相談員を雇用することで、学生相談員同士の教え合いや学び合いが生まれ、これまで問題になっていた引継ぎ問題の解決の糸口となりえることがわかった。</p>			
今後の展開			
<p>今後は、学生相談員同士の教え合いや学びあいの成果に着目し、次年度も本研究テーマを継続的に実施し、特に、未熟であった経験を持った先輩TAが新規TAのチューターとなるような制度を実現し、新規TAの指導能力の向上の仕組み作りに取り組みたい。</p>			